

小児医療施設コロナ禍におけるボランティア活動報告（第3回緊急事態宣言 4/25~6/20）「こども病院ボランボラコの会」2021年5月30日現在

病院	A 病院	B 病院	C 病院	D 病院	E 病院	F 病院	NPO（病棟で活動）
コロナ禍における病棟の子どもや家族や付き添いの状況と変化	病棟の面会は全面的に禁止。保護者の付き添いは1名。食事は院内コンビニ利用。又は家からの持ち込み（病院玄関で預けて、病棟スタッフが取りに来る）。中にはずっと親と会えていない子もいる。プレイルームは少人数で使用可イベントの時は親も含め10名以内	外来の付き添いは1名のみ。外来患者の出入り口は一か所に制限されており、常に警備員が立ち、付き添いの制限確認や体温チェックをしている。面会は保護者1日1時間（12-20時）両親のみ。病棟プレイルームには利用制限あり、病棟により異なる。	面会は親（親権者）祖父母の中から1日1名のみ、面会者の途中交代なし、12~20時。病棟付き添いは面会と同様の1名のみで24時間毎の交代は可。外来付き添いは親（親権者）祖父母、中学生以上の兄弟の中から1日2名、交代なし。プレイルームは個別で使用可。	面会は原則両親のみで2名以内12時~22時 飲食はできない入院患者の院内散歩は休日と夕方 きょうだいの来院は原則できない。状況によりきょうだい面会可能。病棟のプレイルームは人数で利用可。オンラインイベントは人数制限で可能。病棟により異なる。	面会は保護者1名、7時~20時までのうち1日最大4時間まで。きょうだいは、外来も病棟も原則付き添い禁止。きょうだい用保育室利用にも制限あり。病棟プレイルーム利用も病棟によっては制限あり。	付添は1名、面会は保護者1名、1日最大2時間まで。プレイルームの使用は、外来は制限なし。病棟は密にならないように時間で制限することもある。診療科によって時間や場所（ラウンジを使うなど）を決めている病棟もある。	病棟での遊びの活動は2020年2月より停止。現在までやりとりはなく、中の様子がわからない。
活動の状況と変化	感染対策を徹底しながら希望者だけで活動している。外来プレイルームとボランティア室での作業はOK 主にイベントの小物作りや壁面作成・病院からの依頼に対応。感染対策の上でイベント等も受け取っている。病棟活動は禁止	屋外の園芸活動、在宅協力のできるソーイングとクラフトのみ活動希望者が活動継続。一週間の検温と体調の問診票の提出。きょうだいあずかり、外来、病棟の活動は病院の感染対策により認められていない。季節の飾りは、コーディネーターと職員の協力で実施	県の警戒レベル引き上げにより5/17から館内で活動するボランティアは活動中止。オンラインイベント、館外で活動する園芸のみ実施している。季節飾りは作品を受け取りVCが掲示している。患者さんの図書室利用も中止。司書がブックトラックを移動させている。	活動が出来ない所はきょうだい預かりや病棟、およびホールでのイベント。他は人数減らしながら活動している。外来の案内・患者図書・重心施設での作業・園芸・縫製や作業や院内の季節飾り等。活動を希望する方のみ。昨年度は前年の3分の1。感染対策を徹底している。	病棟への立ち入り、イベントの開催はできないが、外来案内、縫製、園芸、飾りつけは感染対策を施し行っている。対策内容は、入力による健康チェック、活動人数の制限、こまめな消毒など。活動自粛の方や団体ともできるだけ連絡をとり、参加可能な活動を模索中。	活動は休止中。外来の展示作品交換のみ行っている。緑のボランティアやワクチン接種を終了した方のみ復帰を考えている。しかし、ボランティアハウスが一般の方のワクチン接種会場としているため、急速する場所がないので困っている。	20年4月より医療従事者へサラダの寄付を開始。毎週50食、1年たった現在も続けている。ボランティアは前日準備に二人、当日4人で調理にあたっている。病棟での活動は休止状態
病院の声 医療者の声	ボランティアは不要不急ではない存在（副院長）病棟でも活動をしてほしい。特に付き添いで疲れているご家族へのリラクゼーションは早く再開してほしいとの声がある。	ボランティア活動は、困っている患者にとり必要だが、感染拡大の状況では、活動再開は難しい。外来で患者が困っていたら看護師がやるよう病院長から指示がでている。	（オンライン、塗り絵などの寄付）は入院生活に変化を与えてくれ、患者や家族の笑顔が見られると感謝されている。読み聞かせや音楽イベント、こどもの遊び相手など再開が待たれている。	ボランティアは不要不急ではない。安全第1に考え患者家族と接して活動者にはワクチン接種した。七夕飾りでは、短冊に、こどもや家族が願いを書いている。本貸し出し希望が保育士や指導員から寄せられる。	ボランティアは必要不可欠と認識し、コロナ禍でも活動継続していることに大変感謝している。安全かつ安心に活動して頂けるよう努めたい。患者ご家族のために共に協力したい。	医療者も一日も早い復帰を希望している。しかしワクチン接種後で、コロナ対策本部委員会の承認を得ることは必須である。ワクチン接種を終えたとしても病棟での活動はできない。	サラダを食べている医療従事者から感謝の色紙を何度か頂いた。こちらも応援メッセージを弁当容器の蓋に書いて気持ちを伝えている。HPでもFBでも公開している。
家族の声	ボランティアが安心して活動できるように、ワクチン接種の対象にしてほしい。・ボランティアがいないので寂しい。早く一緒に遊びたい（病棟）	在宅でのソーイングの対応には感謝の手紙が複数ある。兄弟預かりや外来の遊びの再開を望む声があるが、現在現況を理解し特に家族からの希望の声はない	2020年2月以降、活動は全て中止。直接の声は届いていない。オンラインイベントボランティアは喜ばれている。	きょうだい預かりは、希望の声があるが、この状況下ではできないことも理解されている。外来のプレーコーナーの利用禁止や本の撤去については、希望に声出していない。短冊には願い事がたくさん書かれている。	外来など、コロナ禍の活動について否定的なご意見は一切ない。むしろ信頼感のもとにご理解いただいております。	外来は保護者の付添1名のみ。掲示や院内放送で知らせているが守られていない。外来では兄弟や付き添いが二人以上いても注意できず制限の厳しい入院家族から不満が上がっている。	早くお母さん食堂や遊びを再開してほしいという声が退院した親から寄せられている
ボランティアの声	患者家族が待っているのを見ると1人でも活動しようと思う。・病棟の子どもが気がかり早く病棟活動したい。・ワクチン実施するまで安心して活動できない。・厳しい状況でも受け入れてくれる病院に感謝	来院して活動できること望む声は非常に多い。	県の警戒レベルに応じて活動できることできないことが周知されており苦情は来ていない。活動できる時を待ちますとの声が多い。病院のコロナ対策を尊重して頂いている。	ボランティア団体は、緊急事態宣言が発令時は活動自粛とし、それ以外は本人の意思に元図いて活動を決めている。自分が感染させるのではないかと不安もあり、ワクチン接種後に活動するという声を聞く。	2回の活動休止を経て出した結論は「私たちの活動は不要不急ではない」「自発性を尊重しよう」ということ。感染予防を十分にし、でも心は密にして、これからはいかなる時も休まずに活動継続する予定。	2か月に1度ボランティア通信で病院の様子をお伝えしている。早く復帰したい、できることはないのかとの問い合わせが時々ある。	病院から忘れられていないか心配。

